

ドローン活用による追肥の省力化 ～レンコンの生産性向上を実証～

1 普及活動のねらい

れんこん産地協議会（43 戸）は、農作業の負担軽減やレンコンの収量・品質向上を目指して、スマート農業技術や新品種の導入に取り組んでいる。本年度は、レンコン栽培に重要な追肥作業の省力化をねらいとして、ドローンによる粒状肥料散布を試行し、省力効果と収量向上効果の実証を行った。

2 普及活動の成果

ドローン粒状肥料散布の作業時間は約 3 分 25 秒/10a で、手作業と比べて 10 分の 1 程度に短縮されることが明らかとなった。PK 化成およびけい酸加里を散布した試験区において、慣行区と比較して 2 L 率が高くなった。けい酸加里区の収量は 2.3t/10a と、慣行区と比べて 0.1t 向上し、追肥による収量向上効果を確認することができた。実証農家は、ドローン粒状肥料散布による収量・品質向上効果を評価し、次年度も継続する意向を示した。

3 普及活動の内容

れんこん産地協議会事務局の J A あいち海部とともに、実証農家とほ場を選定し、試行内容を決定した。ドローンによる粒状肥料散布時に、散布時間を計測し、省力効果の把握を行った。実証農家への聞き取りと J A 出荷履歴から試験区ごとの収量を調査し、生産性向上効果について J A 及び実証農家と意見交換した。調査結果を資料にとりまとめ、れんこん産地協議会で共有した。



試験区図面（5月15日撮影）



レンコン田の上空を飛ぶドローン

重点課題名	3 スマート農業技術の活用による野菜産地の育成
普及事項名	(10) レンコンにおけるドローンを利用した肥料散布による生産性の向上